

アムンディ・マーケットレポート

FOMC について～当局は 2020 年米国経済をどう見ているか？

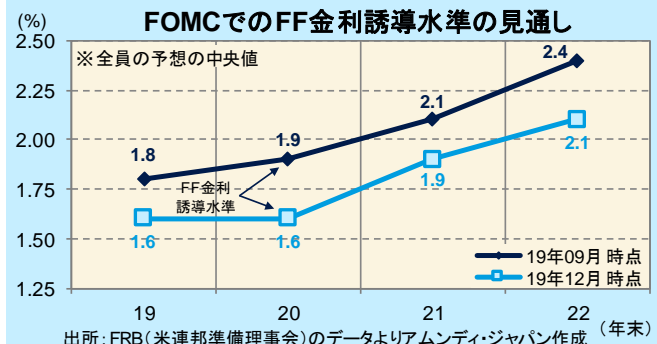
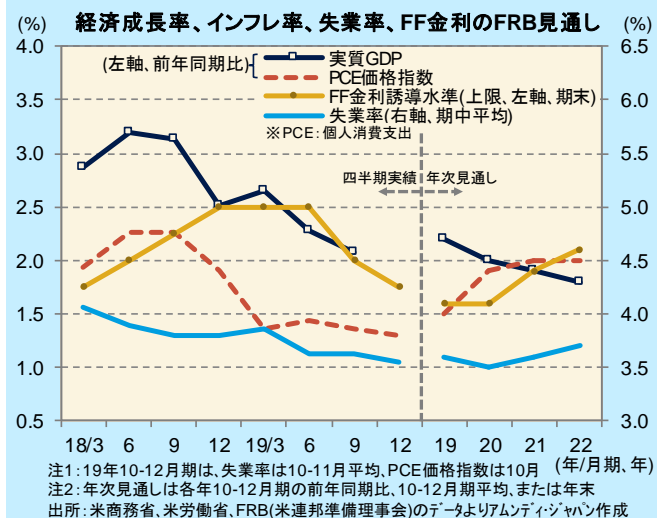
- ① FF 金利は 1.5-1.75% に据え置きでした。景気が底堅く、これまでの緩和の効果を見極める姿勢です。
- ② 2020 年の米国経済はほぼ潜在成長率並みで、金融政策に大きな変化はないと想定されています。
- ③ インフレ率は緩やかに上昇、金利低下観測は後退、ドル・円相場は現水準近辺のレンジが想定されます。

2020 年の米国経済は安定

12月10-11日にFOMC(米連邦公開市場委員会)が開かれ、政策金利であるFF金利の誘導水準は1.5-1.75%で据え置かれました。7月以降、3会合連続で利下げされましたが、今回は様子見となりました。

米国景気は、前回会合(10月29-30日)以降、良好な雇用環境と底堅い個人消費が続き、足元では企業の景況感に下げ止まりの兆候もうかがわれます。こうした中、今回は、現行の金融政策が政策目標(物価安定と雇用最大化)に照らして適正と判断され、これまでの金融緩和の効果を見極める姿勢が採られたと見られます。

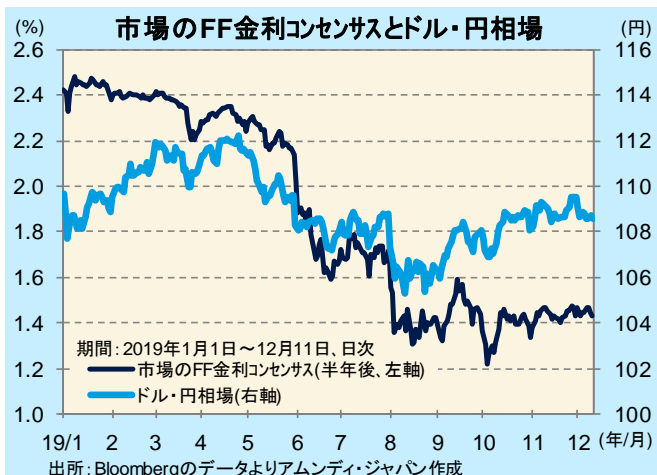
また、四半期毎に発表される、委員会メンバーの経済見通しによると、2020年の米国経済は、おおむね潜在成長率(+2%程度とされる)並みで拡大し、インフレ率は緩やかに上昇して目標に接近すると想定されています。FF金利誘導水準は、前回見直し(9月)から、10月の利下げ分が下方修正された形で、現行スタンスが続くと想定されています。



追加利下げ観測は収束へ

ドル・円相場は、米国景気の先行き不安が和らぐ中で、夏場の1ドル105円程度から緩やかに上昇、足元は108円台です。

今後は、安定成長に移行していく過程で金利低下観測は後退すると見込まれます。半年後のFF金利に対する市場コンセンサスは1.4%台で、1回、0.25%の利下げを織り込んでいますが、このところ安定しており、当面のドル・円相場は、現水準近辺でのレンジで推移すると想定されます。



本資料のご利用に当たっての注意事項等

本資料は、アムンディ・ジャパン株式会社が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものです。
本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入あるいは売却を勧誘する目的で作成されたものではありません。
本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時: 購入時手数料[最高料率3.85%(税込)]

投資信託の換金時: 信託財産留保額[最高料率0.3%]

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.254%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

本資料は、特定のお客様の特定の投資目的および財務状況または要望を考慮して作成されたものではありません。

本資料に記載した弊社の見通し、予測、意見等(以下、見通し等)は、本資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

リスクについて

・金融商品等の投資にあたっては、市場動向等、また投資信託等へ投資する場合にはその裏づけとなっている金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

・金融商品等の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者または保証会社の業務や財産の状況に変化が生じた場合、金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

・デリバティブ取引においては、預託した証拠金を担保として、証拠金を上回る多額の取引を行うことがありますので、相場の変動の要因等により生じた損失の額が証拠金の額を上回る(元本超過損が生じる)ことがあります。

投資した資産価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入のお客様が負うこととなります。

投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。

お申込みの際は、投資信託説明書(交付目論見書)・目論見書補完書面等をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。

販売会社店頭にて投資信託説明書(交付目論見書)をご用意しております。

投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフの適用はありません。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

<R1912032>